〈小学校体育部会〉

Ⅰ　研究主題

「評価を生かした学習指導の工夫・改善」

Ⅱ　研究の概要

体育の評価は子ども一人一人が意欲をもって運動に取り組めたか、自ら考え工夫して運動に取り組めたか、技能の習得状況はどうかを把握し、次の指導の改善に役立てることが基本である。したがって体育の指導と評価は、子どものよさや可能性を伸ばす個に応じた授業を進めるため、「めあて学習(課題解決的な学習の進め方)」を重視して行うことが大切である。

そこで、本部会では、９０時間の体育で身に付けさせたい力を明確にし、学習指導では「めあて学習」、評価では「思考・判断」を重視した、指導と評価の一体化について研究開発を行ってきた。また、個に応じた指導の在り方を研究してきた。

＜研究の構想＞

《平成１３年度の研究開発》
- 評価の観点の考え方
- 評価計画の作成
- 評価方法の工夫

《平成１４年度の研究開発》
- 評価の観点の重点化
- 学習指導内容の工夫
- 指導と評価の計画の作成
- より信頼性のある評価の総括と評定

《今年度の研究開発内容》

〈指導と評価の計画〉
○単元の目標の明確化
・本単元でどんな力を付けさせていくのかを明確にする。

○評価の重点化
・「思考・判断」を中心とした重点的な評価。

〈個に応じた指導〉
○「めあて学習」と評価との関連の重視。
○学習状況に応じた指導の手だて
・「努力を要する」状況（C）への指導のポイント。
・「十分満足できる」状況（A）を判断する視点。

単元の評価の総括

なお、 本部会では、平成１３年度・１４年度の研究開発の内容を基に体育における評価を生かした学習指導について、研究開発を進めてきた。実践事例として昨年度は、主に個人的な運動である「器械運動」を取り上げたことから、今年度は集団的な運動である「ゲーム」・「ボール運動」について研究開発を行った。

Ⅲ　研究の内容

1　指導と評価の計画の工夫・改善について

一人一人の学習の実現状況を適切に評価し、その評価を生かした学習指導の工夫・改善を行うためには、単元の目標を明確にすることが重要である。また、単元の目標及びその時間のねらいを明確にして授業に臨むことが目標に準拠した評価を進めていく基本である。

そこで、以下「第４学年・ベースボール型ゲーム」を例に指導と評価の計画の進め方について例示する。

(1)　指導と評価の計画

ア　単元の目標の明確化　＜単元の目標の設定の考え方＞

学習指導要領の目標・内容や児童の実態及び年間指導計画により、単元の目標を設定する。

●学習指導要領解説の内容

技　能	態　度	学び方
攻守を交替し、投げる、打つ、捕るなどをしながら、簡単な技能を身に付けて、ゲームが楽しくできるようにする。	規則を守り、互いに協力してゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。	チームの課題をもち、簡単なゲームを工夫することができるようにする。

「ゲームの工夫」
・ルールの工夫
・作戦の工夫

【単元の目標】
投げる打つ捕るなどの簡単な技能を身に付け、簡単な作戦を立ててゲームを楽しむことができるようにする。
〔【学習の道すじ（過程）】やや進んだ学習の道筋（ねらい②を中心にする学習）で指導計画を作成する。㊟下記＊及びＰ９５参照〕

●児童の実態
学習の準備状況

ルールの工夫は３年生で十分行ったので４年生では作戦の工夫を中心にしよう

●年間指導計画

●単元を通して子どもたちに身に付けさせたい力
簡単な技能（投げる・打つ・捕る），作戦，ゲームを楽しむ態度（協力・安全）

イ　単元の評価規準と学習活動に即した具体的な評価規準の作成

体育の評価の各観点の趣旨を踏まえ、単元の目標を分析、検討して単元の評価規準を設定する。そして、ねらいとする学習状況を評価するため、「おおむね満足できる」状況（Ｂ）を「学習活動に即した具体的な評価規準」として作成する。その際、「指導計画」における実際の学習活動に対応させて作成する。

＜単元の評価規準＞　　＊やや進んだ学習の道すじ（過程）で指導計画を作成

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
みんなとゲームに進んで楽しく取り組もうとする。また、互いに役割を分担し、協力して練習やゲームを行うとともに、勝敗を素直に認めようとする。さらに安全に気を付けて運動しようとする。	チームの課題をもち、簡単なゲームを工夫している。	ベースボール型ゲームを楽しく行うための簡単な技能を身に付けている。

＊指導計画の作成における学習過程の工夫：興味・関心や技能の習熟状況などが異なる多様な子どもたちがお互いに協力し、チームの課題を追究しながら運動の楽しさや喜びを体験していくゲームやボール運動の学習では、「ねらい①：今もっている力を十分に生かしてゲームやボール運動の特性を求める学習」の段階から、「ねらい②：高まった力に応じて創意・工夫や努力を加えて、ゲームやボール運動の特性をより一層求めていく学習」の段階へと活動を進める学習過程の工夫が必要である。

＜学習活動に即した具体的な評価規準＞

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
①練習やゲームで友達に励まし・賞賛・助言等の声かけをしている。 （②友達と力を合わせて用具や場の準備・片付けをしている。 ③味方の失敗を許し合っている。） ④場所や用具の安全に気を付けてプレーしている。	①より楽しいゲームができるようにルールを変化させ、学習カードに記入したり、話し合いで発言したりしている。 ②自分たちの力に合わせて簡単な作戦や、めあてを立ててゲームをしている。	①（ティーなどで）静止したボールをこぶしまたは手のひらの中心で打つことができる。 ②投げる手と反対の足を一歩踏み出して投げることができる。 ③両手で捕ることができる。
	＊ 括弧内の評価規準については、他の単元で重点とする。	

(2) 評価の場面・方法

ア 思考・判断を中心とした評価の重点化

「思考・判断」を中心として評価を重点化することで、めあて学習（課題解決的な学習の進め方）と評価を生かした学習指導の関連を図ることができる。また、一人一人がめあてをもち学習を工夫することで、「関心・意欲・態度」の高まりや「技能」の習熟も図ることができる。

イ 関心・意欲・態度の学習活動に即した評価規準の重点化

「関心・意欲・態度」の評価について、単元のゲームの特性と年間指導計画から学習活動に即した具体的な評価規準を重点化し、身に付けさせたい力の定着を図る。

ベースボール型（攻守交替型）の特性		「関心・意欲・態度」の重点評価項目
・攻守混合型に比べて友達の動きが見やすく互いに声がかけやすい。	→	関①練習やゲームで友達に励まし・賞賛・助言等の声かけをしている。
・バットやボール、ベースなどの用具の安全の配慮が必要。	→	関④場所や用具の安全に気を付けてプレーしている。

（＊②③については他のゲームや他領域で重点化する。）

重点化の効果

○ 「思考・判断」の評価とめあて学習を関連させ、児童の活動の中に意図的に評価活動を組み込むことにより、学習活動における指導と評価の一体化を図ることができる。

○ 「関心・意欲・態度」の学習活動に即した具体的な評価規準を重点化することにより、身に付けさせたい力の習得を図ることができる。

ウ 「技能」の評価規準の明確化

単元における「簡単な技能」について学習活動に即した具体的な評価規準を設定することで、身に付けさせたい力が明らかになる。また、児童が技能の内容をめあてとして設定したり、自己評価や相互評価したりする上でも評価が明確になる。

エ 評価方法の計画

評価活動をより具体的にするために、「学習活動に即した具体的な評価規準」を計画に位置づける際、評価方法を明記する。

2　個に応じた学習指導の工夫について

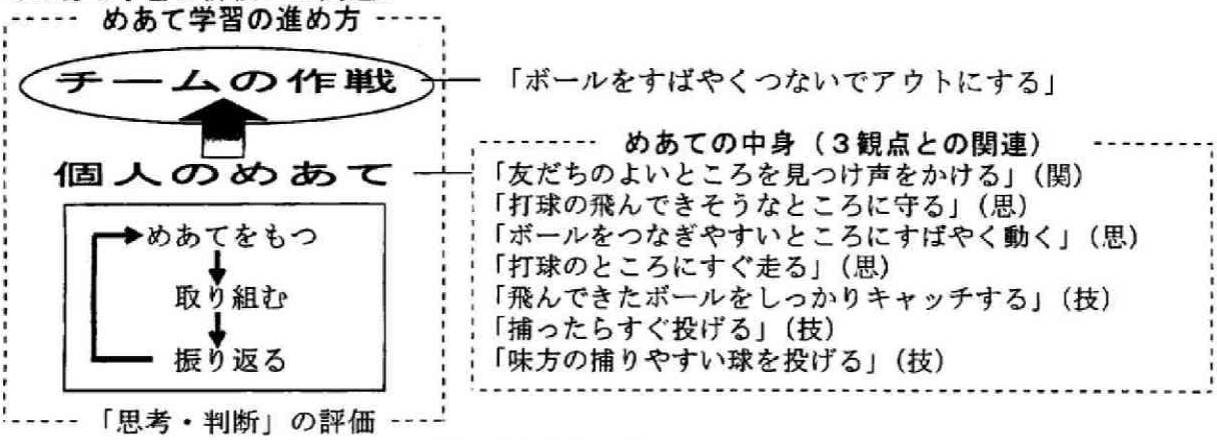
(1)　ゲーム・ボール運動領域における「めあて学習」と評価との関連の重視

「めあて学習」における「めあて」には、「①目標を設定する」「②課題を選択する」「③活動を決定する」の三つの中身が含まれている。そのことを集団対集団で競い合うゲーム・ボール運動領域において考えたとき、チームの作戦と個人のめあてを関連付け、チーム（作戦）の指導を通して個人（めあて）への指導を行うことに視点を置いた学習を進められるよう、学習過程を工夫することが大切である。

また、めあて学習は前項１「(2)評価の場面・方法」でも述べたように「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」の評価と関連させ、めあての達成状況を評価することで、３観点の評価を関連づけて行えるようにすることができる。その際、めあて学習における学習活動の中に意図的に児童の評価活動を組み込んでいくことにより、学習活動における指導と評価の一体化を図るとともに、自己評価活動及び相互評価活動も深まるものと考える。

次に前項に引き続き「第４学年・ベースボール型ゲーム」を例に個に応じた学習指導の工夫について例示する。

<めあて学習と評価との関連>



<めあて学習を進める上で、子どもが達成状況を判断するための工夫例>

めあてが達成できたか（課題が解決できたか）を子どもが確認するためには、学習を振り返る際、できるだけ客観的な資料を基にすることが必要である。客観的な資料は子どもの学習の準備状況に応じて学習過程の工夫と合わせて授業を構想することが大切である。

①めあての達成状況を判断する学習カードや学習の記録→ナイスプレーカード

学習活動に即した具体的な評価規準の中で個人のめあてとの関連から、ゲーム中に相互評価できる項目を設定しゼッケンナンバーで記入する。児童が判断する規準は具体的な評価規準を児童向けの言葉に置き換える。また、判断する規準を児童向けに明確にすることでそれぞれの項目を個人のめあてとして設定することもできる。

	ゼッケンナンバー					関連する評価規準	〈児童の判断規準〉
ナイスボイス						→ 関①	よい声かけ（励まし、賞賛、助言）
ﾅｲｽﾊﾞｯﾃｨﾝｸﾞ						→ 技①	静止したボールを打つ
ナイススロー						→ 技②	一歩踏み出して投げる
ナイスキャッチ						→ 技③	両手でしっかり捕る

②めあての達成状況を判断する視聴覚機器の活用→ＶＴＲ、デジタルカメラ（動画撮影）

(2)　学習状況に応じた指導の手だて

児童一人一人に学習状況の評価を生かした指導を行うために、個々の状況に対応した具体的な状況の例や指導のポイントを明らかにする。（※ P95<単元の指導と計画の具体例>参照）

ア　「努力を要する」状況（C）への指導のポイント

「努力を要する」状況（C）にある児童への指導の手だてや働きかけを示すことにより、基礎・基本の確実な習得を図る。

イ　「十分満足できる」状況（A）と判断する視点

「おおむね満足できる」状況（B）を踏まえ、十分満足できると判断できる具体的な状況を示すことにより、評価の信頼性を高める。

＜単元の指導と計画の具体例＞

第４学年ベースボール型ゲーム　　＊やや進んだ学習の道すじ（過程）で指導計画を作成

過程	学習活動	評価の観点	評価方法・場面	「努力を要する」状況（C）への指導のポイントと「十分満足できる」状況（A）と判断する視点
ルールを工夫し楽しむ（ねらい①）	・学習のねらいを知る ・はじめのゲーム ・ルールの工夫について話し合う	関　思　技 第１時 ④　① 第２時 ①　①	思① つぶやき→ゲーム中 観察・問いかけ →振り返り話し合い 学習ｶｰﾄﾞ→事　後 関① 観　察　→練習中 →ゲーム中 ナイスプレーカード →ゲーム中 関④ 観　察　→練習中 →ゲーム中	思① (C)・ルールの工夫例を提示する。 (A)・ルールの工夫について友達に進んで声かけをしている。 関① (C)・声をかけることで連携がうまくいった具体的な場面を示して賞賛する。 (A)・いつも友達に声かけをしてチームの雰囲気を盛り上げている。 関④ (C)・バットの持ち方やバット・ボールの置き場所等を具体的に指導する。 ・安全ボード（掲示資料）を使い、具体的に安全に気を付ける場面を伝える。 (A)・場所や用具の安全についていつでも友達に声をかけている。
作戦を工夫して楽しむ（ねらい②）	・ルールや作戦の確認 ・ゲームをする ・チームの時間 ・振り返り	第３時 ②　①②③ 第４時 ② 第５時 ② 第６時 ② 第７時 ②　①②③	思② 学習ｶｰﾄﾞ→事前 観察・発言　→話し合い 声　→ゲーム中 学習ｶｰﾄﾞ→記入中 事後 ＶＴＲ　→ゲーム中 事後 技①②③ 観　察　→練習中 ゲーム中 ナイスプレーカード →ゲーム中	思② (C)・チームの力を考えて打順や守備位置などの作戦を決めているかゲームを観察して助言する。 (A)・作戦を意識してチームの友達に声をかけている。 技①＜打つ＞ (C)・助言「手に当たるまでボールをにらもう」「ひじを伸ばして大きくスイング」 (A)・自分でトスして打つ ・人が投げたボール（下手投げ）を打つ 技②＜投げる＞ (C)・助言「ボールを持たない方の肩を投げる相手に向けよう」 (A)・相手の胸をめがけて捕りやすい球を投げている。 技③＜捕る＞ (C)・助言「力をぬいて手を引きながら捕ろう」「大事なボールは拝んで捕ろう」 (A)・ボールの前や下に先回りして体の正面で捕っている。

Ⅳ　実践事例

1　第５学年「ボール運動（ソフトバレーボール）」における単元の指導と評価の計画

(1)　単元の目標

ソフトバレーボールについてサーブやパスなどの技能を身に付け、ルールを工夫し作戦を生かせるように練習やゲームを楽しむことができるようにする。

(2)　単元の評価規準及び学習活動に即した具体的な評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	友達とともに、ボール運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また、勝敗に対して正しい態度をとろうとするとともに、安全に練習やゲームをしようとする。	チームの特徴を知り、作戦を立てたり、ルールを工夫したりしている。	ソフトバレーボールについて、簡単な作戦を生かしてゲームをするための技能を身に付けている。
学習活動に即した具体的な評価規準	①チームの友達に声をかけ、練習やゲームに取り組んでいる。 （②ルールやマナーを守り、審判の判定に従おうとする。） ③友達と協力し合い、練習の場を作ろうとしたり、用具の準備片付けをしたりしようとする。 （④場や用具の安全に気を付けて運動している。） ＊ 括弧内の評価規準については、他の単元で重点とする。	①みんながもっと楽しめるようにルールを工夫し、学習カードに記入したり話し合いで発言したりしている。 ②チームの作戦や自分のめあてを立て、それを達成させるために練習したり、ゲームをしたりしている。	①ソフトバレーボールについて、次の技能を身に付けている。 ・飛んできたボールを、両手でパスできる。 ・片手でアンダーサーブが打てる。 ②ルールを理解して審判をすることができる。

(3)　単元の指導と評価の計画

＊学習の道筋（過程）は、ソフトバレーボールの作戦が立てやすく生かしやすいという特性及び児童の実態等から、**やや進んだ学習の道すじ（過程）で指導計画を作成する。**

【学習の道すじ（過程）】

ねらい①　ルールを工夫し、ゲームを楽しむ。

ねらい②　練習や作戦を工夫してゲームを楽しむ。

時	題	学　習　活　動	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
1・2	ねらい①	○オリエンテーション ・学習の進め方を知る。 ・ルールについて確認し、試しのゲームを行なう。	③観察	①観察 学習カード	②観察 学習カード
3・4・5・6・7	ねらい②	○リーグ戦を行う。 ・１単位時間に２試合、１審判する。 ・チームの作戦を生かせるようにゲームに取り組む。 ・チームの時間を設定し、話し合いや練習をする。	①観察	②観察 学習カード ＶＴＲ	①観察 ①観察

(4)　評価方法の工夫例

①　重点指導チームの評価

毎時間、学習活動に即した評価を基に個人についての評価は行うが、各チームにおけるめあて学習の指導を行うため、計画的に各時間の重点指導チーム（毎時間３チーム）を設定しておき、チーム及び個に応じた指導等を徹底する。このことにより、評価の信頼性を高めることもできる。

②　めあての達成状況を判断する学習カード

Aさんは、サーブがきちんと打てていたな。

【教師】評価の参考とする

このチームは作戦が生かせていたんだな。

ナイスプレーカードの活用

（カードの様式はＰ９４参照）

○視点

・ナイスファイト　・ナイスボイス

・ナイスサーブ　・ナイスパス

・ナイスカバー

○留意点

・審判チームの記録係がナイスプレーをした友達のゼッケン番号を記録する。

・視点を明確に示し、共通理解させておく。

やったあ！ぼくの番号があるぞ。見ていてくれたんだ！

【児童】学習を振り返る

私のめあては達成していたんだ。うれしい！

(5)　学習状況に応じた指導の手だて例

①　「努力を要する」状況Ｃへの指導のポイント

「努力を要する」状況（Ｃ）にある児童への指導の手だてや働きかけを示すことにより、基礎・基本の確実な習得を図る。

ア　関心・意欲・態度

・友達と協力して用具の準備をすると、安全に素早くできることを伝える。

・教師が児童に声かけし、雰囲気を盛り上げ、声かけの大切さを示す。

イ　思考・判断

・ルールを工夫していく視点（みんながより楽しめるように）を明確に示す。

・自分や自分たちのチームの力に合った作戦やめあてがもてているか、しっかり確認し助言する。

ウ　技能

・助言例「ボールの飛んでくる方向にすばやく移動して、ボールの下に両手を差し出すといいよ。」

・追加されたルールは掲示したり、審判チームの役割分担をカードに記入したりして、明確に示す。

②　「十分満足できる」状況Ａを判断する具体的な状況

「おおむね満足できる」状況（Ｂ）を踏まえ、十分満足できると判断できる具体的な状況を示すことにより、評価の信頼性を高める。

ア　関心・意欲・態度

・進んで努力し…。　・自ら進んで…。　・助言しあいながら…。　・いつでも…。

イ　思考・判断

・適切な…。　・～をより工夫して…。　・課題を明確にして…。　・計画的に…。

ウ　技能

・正確な…。　・素早い…。　・いつでも…。　・状況に応じて…。

2　第６学年「ボール運動（バスケットボール）」における単元の指導と評価の計画

(1)　単元の目標

バスケットボールについて簡単な作戦を生かしてゲームをするための技能を身に付け、チームに適した課題をもって互いに協力して練習やゲームを楽しむことができるようにする。

(2)　単元の評価規準及び学習活動に即した具体的な評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	技　能
単元の評価規準	友達とともに、バスケットボールの楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また、勝敗に対して正しい態度をとろうとするとともに、安全に練習やゲームをしようとする。	チームの特徴を知り、作戦を立てたり、ルールを工夫したりしている。	バスケットボールについて、簡単な作戦を生かしてゲームをするための技能を身に付けている。
学習活動に即した具体的な評価規準	①チームの友達に声をかけ、練習やゲームをしている。 ②ルールやマナーを守り、審判の判定に従おうとする。 （③友達と協力し合い、練習の場をつくろうとしたり、用具の準備をしたりしようとする。 ④場や用具の安全に気をつけて運動している。）	（①みんながもっと楽しめるようにルールを工夫し、学習カードに記入したり話し合いで発言したりしている。） ②チームの特徴を生かした作戦や自分のめあてを立て、それを達成させるために練習したり、ゲームをしたりしている。	①次の技能を身に付けてゲームができる。 ・仲間が捕りやすいパスができる。 ・相手のパスやシュートを防ぐことができる。 ・ドリブルで移動できる。 ・両手でシュートできる。 ②ルールを理解して審判をしている。
	＊ 括弧内の評価規準については、他の単元で重点とする。		

(3)　単元の指導と評価の計画

＊学習のねらいと道筋は、児童の実態（学習の準備状況）及び年間指導計画から、**進んだ学習の道すじ（過程）で指導計画を作成する。**

【学習の道すじ（過程）】

ねらい①　簡単なルールやマナーを理解しリーグ戦（ゲーム）を楽しむ。

ねらい②　対戦チームとの話し合いでルールを決め、作戦を工夫して対抗戦（ゲーム）を楽しむ。

時	過程	学習過程・活動	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
1・2・3・4	ねらい①	○オリエンテーション ・学習の進め方を知る。 ・ルールについて確認し、試しのゲームを行う。 ○リーグ戦を行う。 ・チームの特徴を知り、作戦を明らかにする。	②観察 ①観察	②観察 学習ｶｰﾄﾞ ②観察 学習ｶｰﾄﾞ ＶＴＲ	②観察 ①観察
5・6・7	ねらい②	○対抗戦を行う。 ・チームのめあてに応じた練習を計画的に行う。	①観察	②観察 学習ｶｰﾄﾞ ＶＴＲ	②観察 ①観察

(4) 授業実践　（7時間扱いの4時間目の例）

① ねらい

チームの特徴を生かした作戦や自分のめあてを立て、それを達成させるために練習したり、ゲームをしたりする。

② 展　開

学　習　活　動	評　価　（内容／方法）	教　師　の　支　援
1 集合、整列する。 2 本時の作戦とめあてを確かめる。 3 準備運動をする。 4 ボール慣れをする。	・素早く、チームごとに並んでいる。（動き、姿勢／観察、声かけ） ・教師の話を集中して聞いている。（視線、姿勢／観察、問いかけ） ・ストレッチングを正しく行っている。（正確な運動／観察、声かけ） ・ボールを使ってしっかり運動している。（運動量／観察、声かけ）	・整然とした集団行動で、学習に向かう気持ちを高めさせる。 ○チームの作戦や個人のめあてを意識させる。 はっきりしていない場合は、チームの仲間に確かめさせる。 ・けが防止のため、準備運動とボール慣れをきちんと行わせる。
5 第1ゲームを行う。 Aコート： 黄 対 水色（審判：緑） Bコート： 青 対 橙（審判：白） 6 第2ゲームを行う。 Aコート： 緑 対 橙（審判：水色） Bコート： 黄 対 白（審判：青） 7 練習タイム 8 3ゲームを行う。 Aコート： 白 対 緑（審判：橙） Bコート： 青 対 水色（審判：青）	・勝敗に対して正しい態度をとっている。（公正／観察、声かけ） ・安全に気をつけてゲームをしている。（反則、危険なプレー／観察、声かけ） **◎評価の重点：思考・判断②** チームの特徴を生かした作戦や自分のめあてを立て、それを達成させるために練習したり、ゲームをしたりしている。 **◎評価の重点：技能①** 次の技能を身につけてゲームができる。 ・仲間が取りやすいパスができる。 ・相手のパスやシュートを防ぐことができる。 ・ドリブルで移動できる。 ・両手でシュートできる。	○ゲームでは、正しい態度や安全な動きを意識させる。 ・友達を励ます発言を賞賛する。 ・審判のチームの役割分担をきちんと行わせる。 ○ゲームと練習タイムを観察して、技能について助言する。 ・取りやすいやわらかなパスや両手でのシュートを賞賛する。 ・相手の動きを見て、素早く移動するよう助言する。 ・ボールを見ないでドリブルをするように助言する。 ○練習タイムを観察し、作戦に合った練習を選んで行っているか（チーム）、作戦のことを考えて練習しているか（個人）見取り、助言する。
9 整理運動をする。 10 学習をふりかえり次時の見通しをもつ。	・クールダウンの運動をしている。（動き／観察、声かけ） ○本時のまとめを学習カードに記入している。（話し合い、記入の様子／観察）	・ゆったり大きく行わせる。 ○本時の学習のふりかえりをさせる。 ・記入した内容を発表させて、次時の見通しをもたせる。

(5) 学習状況に応じた指導の手だて例

①「努力を要する」状況（C）への指導のポイント

○技能①について

⇨ 基本的なパス、ドリブル、シュートが身につく練習や1対1、2対2などの練習を通して、動きについて助言する。

○思考判断②について

⇨ 作戦に合った練習の場を示す。作戦のことを考えて練習するように助言する。

②「十分満足できる」状況（A）と判断する具体的な視点

○技能①について

⇨ 仲間が取りやすい正確なパスができる。正確なシュートができる。巧みなドリブルで相手をかわすことができる。状況に応じて相手のパスやシュートを防ぐことができる。

○思考判断②について

⇨ 作戦を成功させるために，練習を工夫して行っている。練習を計画的に行っている。

3　単元の評価の総括

単元の学習過程における観点ごとの評価結果を整理し、観点ごとの評価の総括を行う。

評価の計画に基づく毎時間の評価を記録する。 ➡ 学習過程における評価結果を整理する。 ➡ 学校で定めた総括方法を基に評価を総括する。

⇓

＊授業中の記録や学習カード等を活用して、総括的に学習活動を評価する。

↳（例）チームの作戦・個人のめあてをカード形式にして携行し、重点指導チームの指導と評価と合わせ、記録をつける。

【単元の評価記録・総括表の例】～ボール運動「ソフトバレーボール」を例として～

	関心・意欲・態度		思考・判断							技能			総括		
	②用具の準備・片付け	③積極的な声かけ	①ルールの工夫		②チームの作戦や自分のめあての達成					②審判として運営	①両手パス・片手サーブ		関心・意欲・態度	思考・判断	技能
時	1	3	1	2	3	4	5	6	7	2	4	7			
児童1	B	A	A	A	A	A	B	A	B	A	B	B	A	A	B
児童2	B	B	C	B	B	A	A	B	B	C	B	B	B	B	B
児童3	A	B	B	B	A	B	B	B	A	B	A	A	B	B	A

＊指導と評価の一体化を図ることで、学習指導要領に示された基礎・基本をどの子にも確実に身に付けさせるために、体育において評価を重点化することは有効な方法である。また、毎時間の授業で得られる評価情報は、子どもの学習状況を把握するとともに、指導方法の改善や見直しを適切に行うために生かしたり、単元の評価を総括に生かしたりし、有効に活用することが重要である。

Ⅴ　研究のまとめ

1　単元の目標の明確化

指導と評価の一体化を図るためには、本単元で何を学び取らせどのような力をつけたいのか、学習指導要領の目標・内容と年間指導計画、児童の実態から単元の目標を明らかにして指導計画を作成することが重要である。

2　評価の重点化

「思考・判断」の評価を重点として「めあて学習（課題解決的な学習の進め方）」に関連させ、児童の活動の中に意図的に評価活動を組み込むことにより、学習活動における指導と評価の一体化を図ることができる。

3　「めあて学習（課題解決的な学習の進め方）」と評価の関連

「めあて学習」におけるめあての達成状況を評価することで、「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の技能」の３観点の評価についても関連させて評価をすることができる。

4　学習状況に応じた指導の手立て

基礎・基本の確実な定着を図るため、「努力を要する」状況（C）の児童へは、指導のポイントを明らかにすることが大切である。また、評価の信頼性を高めるために、「十分満足できる」状況（A）と判断できる視点を明らかにすることが大切である。いずれも、各学校において研究を深めていくことが必要である。